

令和5年度みやぎ工業会サロン 実施報告

2023年8月29日
みやぎ工業会・事務局

このたび、令和5年度みやぎ工業会サロンを開催しましたので、ご報告いたします。

みやぎ工業会サロンとは、過去3年以内に入会された新会員の方々と、理事長、副理事長、交流推進委員等に参加して頂き、現状の課題や当会への期待などを語り合っ頂くことで、会員同士の交流を深め、また新会員の皆様に工業会を有効に活用して頂くことを目的に開催している交流会です。

今回は2018年以来、5年ぶりの開催となり、23名の方に参加して頂きました。

1. 開催概要

■開催日：令和5年8月24日(木) 14:30～16:30

■場所：仙都会館 7階D会議室

■内容

1. 開会挨拶：交流推進委員会 委員長 千葉 貴之 氏

2. 議事

(1) 参加者紹介（事務局）

◇令和3年度以降に入会された新会員

◇役員、交流推進

(2) みやぎ工業会の概要紹介（事務局）

◇各委員会、主要行事の紹介等

(3) グループ討議（4グループに分かれての意見交換会）

◇自己紹介 現状の課題

◇みやぎ工業会に期待すること etc

(4) グループ討議のまとめ発表

2. 参加者

< 敬称略 >

No	区分	社名・機関名	役職	参加者氏名	GRP	備考
1	新会員	(有)千田清掃	代表取締役	千田 信良	A	R3 年度入会
2	新会員	十符の里工業(株)	代表取締役	大友 一史	A	R3 年度入会
3	新会員	(株)ミュージナル	営業部長	本田 裕二	A	R5 年度入会
4	理事長	岩機ダイカスト工業(株)	代表取締役社長	鎌田 充志	A	
5	副理事長	通研電気工業(株)	取締役社長	管野 秀幸	A	
6	交流推進委員	新東北化学工業(株)	代表取締役社長	松本 浩	A	GRP 討議進行役
7	新会員	(有)千田清掃	執行役員営業部長	野々村 隆一	B	R3 年度入会
8	新会員	(株)ウイングシステムズ	代表取締役	小野寺 伸浩	B	R4 年度入会
9	副理事長	産電工業(株)	代表取締役	高橋 昌勝	B	
10	副理事長	プラスエンジニアリング(株)	取締役事業所長	浅野 謙一郎	B	
11	交流推進委員	(株)ブレイン	取締役副会長	鈴木 英信	B	GRP 討議進行役
12	技術交流委員	個人会員		厨川 純一	B	R5 年度入会
13	新会員	共進機材(株)	社長室室長	大槻 文彦	C	R3 年度入会
14	新会員	(株)サイバーソリューションズ	営業部長	遠藤 真弘	C	R4 年度入会
15	副理事長	(株)エヌエス機器	代表取締役	阿部 秀敏	C	
16	交流推進委員	(株)千葉出版印刷	代表取締役	千葉 貴之	C	GRP 討議進行役
17	交流推進委員	東北パイプターン工業(株)	営業部長	金原 太郎	C	
18	新会員	共進機材(株)	本部長	山本 一貴	D	R3 年度入会
19	新会員	七十七ヒューマンデザイン(株)	代表取締役	庄司 大志	D	R5 年度入会
20	副理事長	一般社団法人みやぎ工業会	特任顧問	白幡 洋一	D	
21	副理事長	ヤマセ電気(株)	代表取締役社長	菱沼 厚	D	
22	交流推進委員	東通インテグレート(株)	執行役員事業部長	川島 国樹	D	GRP 討議進行役
23	情報委員長	(株)仙台ニコン	人事・総務部長	中島 明	D	
24	事務局	一般社団法人みやぎ工業会	専務理事	青沼 廣利		
25	事務局	一般社団法人みやぎ工業会	事務局長代理	尾形 武則		
26	事務局	一般社団法人みやぎ工業会	事務局員	高橋 ちより		

◆参加人数 (全 26 名)

- ・新会員 (R3 年以降入会) : 9 名
- ・役員 (理事長、副理事) : 7 名
- ・交流推進委員等 : 7 名
- ・事務局 : 3 名

3. グループ討議について

参加者が4つのグループに分かれて様々なテーマでディスカッションを行い、最後に各グループの議論の内容を発表した。

3.1 グループA 発表者：新東北化学工業(株) 松本氏

「人手不足、人材採用について」

- ・困りごととして、人材不足や人手不足の問題が話題になった。対策として、定年の延長などは大分前から実施しているが、出席者の中には、支援学校の生徒の採用の他に、職場体験や自社のPRのための出前講座を行って積極的に採用活動を進めているところもあり、見習う必要があると感じた。
- ・現実問題として、高卒の採用が非常に難しくなっているが、理由としては進学率の増加だけではなく、親御さんの影響が非常に大きくなっている。大手志向だったり、会社の内容を知らないまま親御さんが決めてしまう場合があるが、その傾向は高校生だけでなく、大学生にもあてはまる。このため、職場体験や説明会などで、親御さんにも会社のことを一緒に理解してもらう努力が必要で、待ちの姿勢では人は来ないという意見が出された。
- ・退職の防止についても意見交換を行った。優秀な人材から早く辞めていくという傾向があり、それは会社にとってマイナスであるため、退職防止のための面談などを通じて、会社の将来のビジョンをしっかりと伝えていかなければいけない。昔のように、ただ「頑張れ」というだけでは、もう人は動かないという意見が出された。
- ・また生産現場によっては、いわゆる2直、3直という勤務形態はまだ多いが、そういう現場には実際に人が集まらず、直数の減少や生産量の減少、さらには売上げの減少などに繋がってしまうという問題がある。夜勤手当などの経済的なものだけでは、人は動かないため、そのあたりをどうするかということが課題になる。

[CO2の排出削減について]

- ・CO2の排出削減については、国や仙台市は実質排出量ゼロを目指すと言っており、そのためにはグリーン電力の購入やグリーン燃料への切り替えなどに積極的に取り組んでいく必要がある。出席者の中には、お金だけの問題ではなく全体のことを考えて、CO2排出量削減に取り組んでいるところもあった。今やソーラー発電は売電目的ではなく、自家消費のためのグリーン電力としての活用という認識が広まっているという意見も出された。

[熱中症対策について]

- ・また季節柄、熱中症対策についても意見が出された。これは製造業の生産現場だけでなく、サービス業や屋外で作業する現場などに共通の問題で、普段の生活のコントロールと同様に、作業現場でも水分補強を行っているところが何社かあった。また現場の中に涼しいスポットを作り、そういうところで体を十分に冷やすということをやっているところもあった。

3.2 グループB 発表者：(有)千田清掃 野々村氏

「各社の紹介について」

- ・まず、各社の紹介ということで、いろいろなお話を聞かせて頂いた。異なる業種の方々がほとんどで、古くからやっている会社もあれば、まだ起業してそれほど時間が経っていない会社もいたが、皆さんは「こうしていこう、ああしていこう」という何らかのビジョンを描きながら、この会に参加されているんだということを強く感じ、非常にためになったし、またいい会社が多いんだなということを改めて感じた。

「現状の課題について」

- ・現状の課題としては、それぞれ業種は違うものの、皆、似たような問題に直面している。人材問題、

人材の採用や育成など、人材について悩んでいるところが多く、先ほども話に出ていた障害者雇用の問題や、技術の継承などの問題が話題になった。技術の継承については、昔と違って先輩の背中を見て育てるという時代ではないため、非常に悩んでいるようだった。

- 材料費の高騰については、今はいろいろな価格が上がっているものの、価格への転嫁に関して、買い手である客先からなかなかOKをもらえないという部分があるようで、非常に深刻な問題でもあると感じた。

「工業会に期待すること」

- みやぎ工業会に期待することでは、マッチング等を含めた異業種交流会を推進して頂くこと、これが非常に大きいと思う。また、今ある委員会や人材紹介など、こういったものもうまく活用しながら、やっていけばいいという意見も出された。個人的には、全体を通していろいろな方と非常に楽しい時間を過ごせたため、このような会に是非また参加させていただければと思った。

3.3 グループC 発表者：(株)千葉出版印刷 千葉氏

「現状の課題について」

- 経営課題については、人材不足の問題が話題になった。人が入ってこないし、なかなか定着しない。特に営業部門の人手が足りず、大変だという話になった。また、業界の利益構造等がいろいろと変化していくなか、それにどう対応していくかというお話になった。その後、各社で現状の課題について、思いつくままに話していった。
- 後半は、サイバーソリューションズの遠藤氏の商品の売り方の話になり、どうやって売っていくかということ、ああすればいいんじゃないか、こうすればいいんじゃないか、ということを経営者同士で話していた。

3.4 グループD 発表者：東通インテグレート(株) 川島氏

「工業会に期待すること」

- 各社の紹介や経営課題など、いろいろなお話が出たが、Dグループは工業会に期待することにフォーカスして話し合った。私が工業会に期待すること、それは異業種交流会での情報交換、またネットワークや人脈を形成するということになるが、工業会としては、是非、お金を払ってでも参加したくなる会を目指していく必要があると思っている。そのために、どんなメリットを出していくのかということになる。冒頭の工業会の紹介で、工業会の目的は「業種や規模、地域を超えての交流と研鑽を推進することで、経営基盤の強化や技術の高度化、新しい市場の開拓を図ること」という説明があったが、会員同士が会って話をする、そして自分で持ち帰って会社のほうと共有していくということが大切だと思う。具体的には、例えばビジネスモデルの創出や人材の総合供給、他にも県内のジョブマッチングのような形で、いわゆる同業他社同士でもうまく交流ができてビジネスに結びつけられるということ、随時やっていかなきゃダメなんじゃないか、そんなことを話し合った。
- 納涼祭のように、全体的な大きい会合も必要だと思うが、工業会サロンのように、小さなパートに分かれて交流し、情報交換や議論していくということも大切で、これを活発に進めていく必要があると思う。また地域ごとの交流会も重要で、2月に石巻で開催し、10月に大崎でも開催するが、エリアを縦断しながらやっていくべきという意見が出された。私も交流推進委員として、積極的に進めていく必要性があると感じている。

4. グループ討議の様子





以上